

AI・ロボット 転機予報 Part2

②1

最大の要因

企業への人工知能 (AI) 導入の成否を分ける最も大きな要因は何か。優秀な機械学習エンジニアだろう。か。それとも、担当者が、マインドシエアの技術とビジネスをつ

「熱意」と書くこと精神論のように聞こえてしまうかもしれない。担当者が、マインドシエアの技術とビジネスをつ

ミドルマネジメント層

なぐ力(当社ではソリエると分かりやすいかドルマネジメント層のユーシヨンデザインカもしれない。その人のコミットは絶対に代替と呼んでいる)だろう。職責範囲の中で、会社ができない。やビジネスを改革していくことにきちんと時

私は、熱意のあるミドルマネジメント層の存在が重要だと思っ

いる。ここで言うミドルマネジメント層とソリユーシヨンデザインは、例えば一定の領域で業務推進や改善に責任を持ち、複数のプロジェクトやその主となる領域を統括している注が可能であるが、ミトは利害関係者が多

変革への熱意成否に直結

い。社内でも、現場やIT部門、経営企画部門などが主要なプレーヤーになり、社外ではITシステムの開発会社や、AI技術の開発会社、ハードウェアメーカーなどが関係してく

リーダーシップ

その最初のポイント は、社内でのリーダーシップである。通常の社、ハードウェアメーカーなどが関係してくる。また、予算面の不確

意志の強さ

うことは頻繁に発生す。ロジエクト内の進め方で収まるレベルではない。例えばあるプロジェクトがうまく行かなかった時に、問題設定自体を変えて現状技術で効果の出るやり方を追いつめるのか、それとも他のプロジェクトにフォーカスを移すのかなど、プロジェクト横断での戦略に近い考

柔軟な意思決定

実性も高い。機械学習では試してみないと精度はわからないという側面があるため、例えば精度が不足したので「アノテーション(学習データへのタグ付け)」を追加するのにコストがかかる、という柔軟な意思決定が必要になる。それも、プロ

(金曜日に掲載)

Laboro.AI
代表取締役CTO

藤原 弘将



07年(平19)産業技術総合研究所入所。12年ポストン・コンサルティング・グループ入社。AI系のスタートアップ企業を経て、16年にLaboro.AIを創業。